

群馬パース大学 看護実践教育センター
認定看護師教育課程（摂食嚥下障害看護）
2023 年度受講者選抜試験

【 専 門 科 目 】

※ 注 意 事 項

1. 指示があるまで開かないこと。
2. 受験番号を必ず問題用紙表紙上部の欄に記入すること。
3. マークシートには「氏名」を記入し、「番号」に受験番号を記入・マークすること。正しく記入・マークされていない場合は採点できないことがあるので注意すること。氏名・番号・解答記入欄以外の欄には記入しないこと。
4. 解答は、マークシートの解答記入欄にマークすること。解答方法は、選択肢のうち質問に最も適した選択肢を1つ解答記入欄にマークすること。

例えば、

1

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号1の解答記入欄③にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 記 入 欄									
1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

5. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及びマークシートの汚れ等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
6. 問題用紙の余白等は適宜使用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了後、問題用紙・マークシートは回収する。

以上

問1 摂食・満腹中枢はどこに存在するか。

1

- ① 大脳半球
- ② 間脳
- ③ 橋
- ④ 延髄

問2 舌前半の味覚を伝える脳神経はどれか。

2

- ① 三叉神経
- ② 顔面神経
- ③ 舌咽神経
- ④ 舌下神経

問3 顔面の皮膚・粘膜・歯などの感覚を伝える脳神経はどれか。

3

- ① 三叉神経
- ② 顔面神経
- ③ 迷走神経
- ④ 副神経

問4 唾液腺の分泌に関わる脳神経はどれか。

4

- ① 滑車神経
- ② 三叉神経
- ③ 顔面神経
- ④ 迷走神経

問5 人体で最も硬い組織はどれか。

5

- ① エナメル質
- ② 象牙質
- ③ セメント質
- ④ 骨

問6 乳歯のはえそろう目安はいつ頃か。

6

- ① 1歳
- ② 1歳半
- ③ 2歳半
- ④ 3歳半

問7 唾液に含まれないものはどれか。

7

- ① ムチン
- ② アミラーゼ
- ③ ガストリン
- ④ リゾチーム

問8 下顎骨を挙上する作用がある筋群はどれか。

8

- ① 咀嚼筋
- ② 舌骨上筋群
- ③ 舌骨下筋群
- ④ 舌筋群

問9 口腔内に陰圧・陽圧をかけるときに作用する筋はどれか。

9

- ① 咬筋
- ② 頬筋
- ③ 外側翼突筋
- ④ 内側翼突筋

問10 下顎骨と顎関節を形成している骨はどれか。

10

- ① 上顎骨
- ② 頬骨
- ③ 側頭骨
- ④ 頭頂骨

問 11 脳の部位と機能の組み合わせで誤っているものはどれか。

11

- ① 側頭葉 — 記憶
- ② 頭頂葉 — 空間認知
- ③ 脳幹網様体 — 意識の覚醒
- ④ 視床 — 大脳皮質に至る前の全感覚情報の中継点

問 12 失行の説明で正しいものはどれか。

12

- ① 観念運動失行は、日常の一連の動作を順序正しく行えない。
- ② 観念失行は、自発的な運動は可能である。
- ③ 構成失行は、描画や平面的図形構成、立方体構成がうまくできない。
- ④ 口腔顔面失行は、観念失行が口腔顔面領域に生じる。

問 13 パーキンソン病の説明で誤っているものはどれか。

13

- ① 大脳基底核の病変により、不顕性誤嚥を生じやすい。
- ② 筋緊張亢進・運動減退症候群が生じやすい。
- ③ 自律神経症状として、食事性低血圧が挙げられる。
- ④ 抗パーキンソン病薬の長期内服により、悪性症候群が発症する。

問 14 偽性球麻痺の説明で正しいものはどれか。

14

- ① 皮質脊髄路の両側性核上性病変を指す。
- ② 延髄の嚥下中枢の障害により、嚥下反射が低下する。
- ③ 食塊形成不全を来しやすい。
- ④ 大脳基底核病変型では、高次脳機能障害を併発することが多い。

問 15 四大認知症の症状の説明で誤っているものはどれか。

15

- ① アルツハイマー型認知症では、一次運動野と一次感覚野が障害を受けやすい。
- ② レビー小体型認知症では、嗅覚低下が主たる症状の1つである。
- ③ 血管性認知症では、症状が階段状に進行する。
- ④ 前頭側頭型認知症では、常同行動が特徴的な症状である。

問 16 精神疾患を有する人の抗精神薬による副作用症状で誤っているものはどれか。

16

- ① 錐体外路症状
- ② 唾液分泌過多
- ③ 悪性症候群
- ④ 高プロラクチン血症

問 17 小児の摂食機能の機能発達と障害の組み合わせで正しいものはどれか。

17

- ① 経口摂取準備期 — 哺乳反射, 指しゃぶり, 舌突出
- ② 捕食機能獲得期 — 下唇の内転, 舌突出の固定
- ③ 嚥下機能獲得期 — 顎・口唇の随意的閉鎖, 上唇での取り込み
- ④ 押しつぶし機能獲得期 — 口角の引き(左右非対称) 顎と口唇の協調運動

問 18 小児の疾患で誤っているものはどれか。

18

- ① 脳性麻痺は受胎から新生児(生後4週間以内)までに生じた脳の非進行性病変である。
- ② 大島の分類では, 区分1~4の範囲に入るものが重症心身障害児である。
- ③ ウィリアムズ症候群は, 21染色体の細胞分裂異常の遺伝性疾患である。
- ④ フロッピーインファントとは, 筋緊張の低下を認める乳児の総称である。

問 19 頭頸部がんで誤っているものはどれか。

19

- ① 口腔癌の多くは喫煙, 飲酒, 機械的な慢性刺激による。
- ② がんの組織型は扁平上皮癌が多い。
- ③ 口腔がんのうち歯肉癌が最も多い。
- ④ 中咽頭癌ではヒトパピローマウイルス(HPV)の関与が示唆される。

問 20 誤嚥で誤っているものはどれか。

20

- ① 誤嚥は食べ物や唾液が誤って気管内に入ることである。
- ② 誤嚥性肺炎は胃瘻造設で予防できる。
- ③ 経鼻経管栄養による口腔や咽頭部の不衛生が誤嚥性肺炎の要因になる。
- ④ 不顕性誤嚥はむせを生じずに食事中や夜間睡眠時に起こる。

問 21 死因別に見た死亡率の年次推移：「令和 2 年（2020 年）人口動態統計月報年計（概数）」
（厚生労働省）で第 10 位までにないものはどれか。

21

- ① 肺炎
- ② 誤嚥性肺炎
- ③ 新型コロナウイルス感染症
- ④ 不慮の事故

問 22 代表理論家と著書の組み合わせで誤っているものはどれか。

22

- ① フローレンス・ナイチンゲール — 看護覚え書
- ② アーネスティン・ウィーデンバック — 臨床看護の本質
- ③ ジョイス・トラベルビー — 患者中心の看護
- ④ ヒルデガード・E.ペプロウ — 人間関係の看護論

問 23 社会保障制度の説明で正しいものはどれか。

23

- ① 公的扶助には，生活保護が含まれる。
- ② 保険給付は，現金給付が基本となる。
- ③ 医療保険と介護保険の給付には，医療保険優先の原則がある。
- ④ 介護給付は法定給付，予防給付は市町村の独自給付となる。

問 24 栄養サポートチーム加算の説明で正しいものはどれか。

24

- ① 週 1 回 100 点が算定できる。
- ② 静脈栄養法を実施している患者は算定の対象外となる。
- ③ 経腸栄養を実施している患者の算定には，経口摂取への移行を目的にしている必要がある。
- ④ 歯科医師連携加算では，150 点が所定点数に加算される。

問 25 NANDA-I 看護診断で誤っているものはどれか。

25

- ① 問題焦点型看護診断
- ② ヘルスプロモーション型看護診断
- ③ リスク型看護診断
- ④ エンパワメント型看護診断

問 26 高齢者の特徴で誤っているものはどれか。

26

- ① 体内水分量の比率の減少
- ② アドボカシーの固辞
- ③ 予備能力・回復力の低下
- ④ ホメオスタシスの維持機能の退行性変化

問 27 細胞外液の電解質濃度と pH で誤っているものはどれか。

27

- ① Na^+ — 20~30mEq/L
- ② K^+ — 3.5~4.5mEq/L
- ③ Cl^- — 97~106mEq/L
- ④ pH — 7.40

問 28 栄養評価で誤っているものはどれか。

28

- ① 1日のエネルギー投与量は、標準体重(kg)×25~30kcalで求める。
- ② BMI(体格指数)は、体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))で求める。
- ③ 客観的評価には静的栄養指標、動的栄養指標、総合的栄養指標がある。
- ④ 体重減少率で1か月に1~2%の減少があった時に栄養管理を必要とする。

問 29 脳神経の説明で正しいものはどれか。

29

- ① 三叉神経脊髄路核は、主に触圧覚を中継する。
- ② 三叉神経主知覚核は、主に温痛覚を中継する。
- ③ 三叉神経運動核は、対側の大脳皮質からの一側性支配を受ける。
- ④ 顔面神経下部核は、対側の大脳皮質からの一側性支配を受ける。

問 30 嘔下反射を阻害する薬剤や物質はどれか。

30

- ① 黒胡椒
- ② メンソール
- ③ 半夏厚朴湯
- ④ ゴピクロン

問 31 摂食嚥下の 5 期モデルの説明で誤っているものはどれか。

31

- ① 先行期では、嗅覚が関与する。
- ② 準備期では、食塊形成を行う。
- ③ 口腔期では、嚥下反射が生じる。
- ④ 咽頭期では、食道入口部が開大する。

問 32 反復唾液嚥下テスト (RSST) の説明で正しいものはどれか。

32

- ① 口腔が唾液で湿潤している場合には、予め数回空嚥下してもらってから実施する。
- ② 口腔乾燥があっても加湿すると結果を良化するため、テスト前に加湿してはならない。
- ③ 意識レベル低下が認められる患者にも正しい評価が可能な特徴がある。
- ④ 30 秒間で 3 回未満を陽性と判定する。

問 33 改訂水飲みテスト (MWST) の説明で正しいものはどれか。

33

- ① 3ml の常温の蒸留水を用いる。
- ② 水は口腔前庭に注ぐ。
- ③ 異常所見を認めない場合は、反復嚥下を 2 回行うよう促す。
- ④ 最も良い評点は 1 で、最も悪い評点は 5 である。

問 34 口腔の評価尺度でないものはどれか。

34

- ① Oral Assessment Guide (OAG)
- ② Functional Oral Intake Scale (FOIS)
- ③ Oral Health Assessment Tool (OHAT)
- ④ Revised Oral Assessment Guide (ROAG)

問 35 日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類 2021 で誤っているものはどれか。

35

- ① 学会分類 2021 (食事) 早見表の分類は 8 段階である。
- ② 食事の分類は嚥下訓練食品と嚥下調整食に分かれる。
- ③ とろみの分類は薄いとろみ、中間とろみ、濃いとろみの 3 段階である。
- ④ 学会分類 2021 (とろみ) 早見表にシリンジ残存量テストの測定を示した。

問 36 間接訓練と目的の組み合わせで誤っているものはどれか。

36

- | | | |
|---------------|---|----------------|
| ① 開口訓練 | — | 喉頭挙上の改善 |
| ② シャキア法 | — | 嚥下反射の持続的な改善 |
| ③ ブローイング訓練 | — | 鼻咽腔閉鎖機能の強化 |
| ④ プッシングエクササイズ | — | 声門を含む喉頭閉鎖機能の強化 |

問 37 直接訓練で誤っているものはどれか。

37

- ① 摂食姿勢の選択
- ② 舌保持嚥下訓練
- ③ 食形態の調節
- ④ 一口量の調整

問 38 加齢による摂食嚥下機能への影響で正しいものはどれか。

38

- ① 咀嚼回数が減少する。
- ② 咽頭腔が狭くなる。
- ③ 最大舌圧は低下しにくい。
- ④ 安静時唾液と比べて刺激時唾液の分泌量は低下しにくい。

問 39 フレイルとサルコペニアの説明で正しいものはどれか。

39

- ① フレイルとは、平均よりも老化が進んで要介護に至った状態を指す。
- ② フレイルの入口は、社会との繋がりを失うことである。
- ③ 広義のサルコペニアは、加齢に伴う筋肉量の減少を指す。
- ④ 疾患性サルコペニアは、医原性サルコペニアに含まれる。

問 40 経管栄養法の説明で正しいものはどれか。

40

- ① 経鼻胃管は、キーゼルバッハ部位に沿うように挿入すると出血を予防できる。
- ② 経鼻胃管は、挿入したい側の梨状窩と反対側に頸部回旋した姿勢で挿入する。
- ③ 胃瘻カテーテルは、外部ストッパーと皮膚の間をガーゼやこよりで埋めて安定させる。
- ④ 栄養カテーテルの空腸留置では、カテーテル先端はトライツ靭帯の手前に調整する。